

特集

補助金受給への戦略的取り組み

～日頃の準備が採否を決する！～

ものづくり補助金情報中心(センター)

西河経営・労務管理事務所 所長 西河 豊

1 はじめに

昨年の段階で消費税増税が決定して、その裏返しで大型経済対策も確定しました。

この構図を見ると、政府は、常習性のあるものに手をつけてしまったなどの感もあります。

「継続して今年も実施せねば、前年に大型経済対策を実施した反動落ち」が見えてしまう状況です。

中小企業対策として安倍総理は5.5兆円の大型経済対策を打つと2013年秋の時点で明言しました。

その内容は、設備投資減税とこの連年で実施する大型補助金です。

企業にとって例年にないチャンスです。

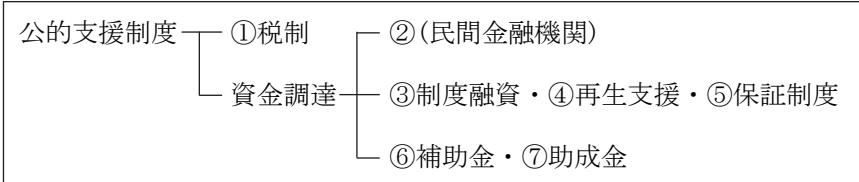
そこで今回は、補助金を採択してもらうために、補助金制度の概要、補助金と助成金の違い、戦略的な取り組みなどについて解説したいと思います。

ただ、ここでご注意いただきたいのは、補助金を受給することが最終目的ではないということです。補助金を理解し、補助金への戦略的な取り組みを行うことが、経営状態の改善や発展に繋がるということを念頭に置き、本稿を読んでいただければと思います。

2 補助金の位置づけを理解しよう！

(1) 補助金の位置づけ

まずは、国の中小企業施策の体系を見てみましょう。



これは中小企業支援策の基本であり、頭に入れておくべきものです。

中小企業施策の基本は極めてオーソドックス、シンプルなもので私のアドバイスは常にこの体系に基づいています。

国の施策体系のロジックに合わせてアドバイスしないと、その場だけのテクニックで損得を考えてしまい、長期的に見るとうまくいかないケースの方が多いからです。

(2) 中小企業の類型別戦略

それでは、企業の類型別にどのような施策を使う場合が多いのか？ということを考えてみます。

まず、財務状況及び当期決算が良い企業は、①税制を使うケースが多くなると思います。

①税制は利益が出ていないと使う意味がありません。

決算上利益が出ている企業が補助金の支給を受けると、更にこれも利益となるので節税という観点からは逆行します。

安倍総理は7兆円の大型経済対策として、設備投資減税を行うと公言しており、決算で每期かなりの利益の上がっている会社は、この①税制を活用することになるでしょう。

次に、債務超過である企業や決算不調企業は、今回メインで解説する⑥補助金を申請しても採択される可能性は低くなります。

昨年、大型補助金で噂を呼んだ「ものづくり補助金」においても、前述の企業の多くは不採択通知を受けました。